

知識と娯楽のフェスティバル 「明治の博覧会」展

会期:2019年1月5日(土)～3月24日(日)

会場:< GAS MUSEUM がす資料館>ガス灯館2階「ギャラリー」

ごあいさつ

GAS MUSEUM がす資料館では、2018年度第四回企画展として、2019年1月5日(土)から3月24日(日)までの期間、『知識と娯楽のフェスティバル「明治の博覧会」展』を開催します。

明治5年(1872)に政府は博物館設立準備のため、そして翌年に開催されるウィーン万国博覧会の準備を兼ね、全国各地より古器旧物のほか書画工藝や動植物標本を集めて展示する博覧会を、湯島聖堂を会場として開催しました。

万国博覧会への出品を経て得た経験を踏まえ明治政府は、明治10年(1877)に殖産興業や富国強兵の一環として全国よりさまざまな文物を集め、分類比較して人々に紹介する内国勸業博覧会を、上野公園を会場として開催しました。その後五回まで開催された内国勸業博覧会は、回を重ねるごとに娯楽性も高まりますが、本来の目的である人々の知的好奇心を刺激し、優れた出品物は表彰の榮譽を受けました。

また明治時代より内国勸業博覧会とは別に、小規模な博覧会は開催されており、大正時代以降も昭和から平成の時代となっても、大小さまざまな博覧会が開催されてきました。

展示会では、明治東京で開催された内国勸業博覧会の様子を描いた作品を中心に、出品された文物を見学する、さまざまな階層の人々の姿が描かれた作品を紹介します。

GAS MUSEUM がす資料館

■展示作品一覧

【展示解説】

学芸員 高橋 豊

【「博覧会」の始まり】

江戸時代より本草学(天然に存在するもので、医薬的に人間へ有効なものを研究する学問)から、博物学(自然界にある動植物や鉱物などを整理研究する学問、広い意味で自然科学を扱う学問)などを研究するさまざまな人々が関わり、展示公開する催し物として「物産会(ぶっさんかい)」が江戸時代後期より盛んに開催されました。「博覧会」という名称が最初に使われた催し物は、明治4年(1871)に京都西本願寺を会場として開催されたものが最初になります。

その後「博覧会」の名称は、翌年に開催された東京湯島を会場としたものをはじめ、和歌山、松本、奈良、彦根など、明治10年(1877)にかけて開催された各地の催し物で使用されました。

しかしいずれも名宝や珍品を集めて展示公開する催し物でした。

1)博覧会目録

明治4年(1871)

【湯島聖堂博覧会】

明治5年(1872)3月10日(旧暦)に、かつて幕府の学問所があった湯島聖堂の地で、湯島聖堂博覧会が開催されました。

この催しは政府による博物館設立準備のため、そして翌年に開催されるウィーン万国博覧会の準備を兼ね、全国各地より古器旧物のほか書画工藝や動植物標本を集めて、入場料を徴収する形で開催されました。

当初は20日間の開催予定でしたが、好評のため期間が4月30日まで延長され、総来館者は192,878人を数えました。



展示の目玉は名古屋城の金の鯨で、その大きさからか、建屋の外にガラスケースへ入れて展示されました。

このほかの展示品の多くもガラスケースの中に並べて陳列され、舶来の電信機や油絵も展示されたと言われています。

2)東京名所図会 博覧会

歌川広重(三代) 年代不明

3)東京名所三十六戯撰 元昌平坂博覧会

昇齋一景 明治5年(1872)

4)東京明細図会 聖堂博物館

歌川広重(三代) 年代不明

【第一回内国勸業博覧会】

会場:東京・上野公園

開催期間:明治10年(1877)8月21日～11月30日

総来場者数:454,168人

内務卿大久保利通は「富国強兵・殖産興業」のスローガンのもとで内政を第一とした積極的な近代化政策をすすめましたが、その一環として政府主導による内国勸業博覧会が、明治10年(1877)に上野公園を会場として開催されました。

現在の東京国立博物館が建つ寛永寺本坊跡に建てられたレンガ造りの美術館を中心に、左右対称に東本館と西本館が設けられ、その中は機械・園芸・農業など6地区に分けられていました。

各地より出品された品々は、素材や製法、品質面や効能や価格などを考慮して審査され、最高の賞である鳳紋賞牌を受賞したのは、臥雲辰致(がうん たつむね「たち」、「ときむね」とも読む説あり)が開発したガラ紡機になります。

5) 上野公園地 博覧会御開業図

小林栄成 明治10年(1877)

6) 上野公園地 内国勸業博覧会開業図

小林栄成 明治10年(1877)



7) 東京名所之内 上野山内一覽之図

河鍋暁斎 明治10年(1877)

8) 内国勸業博覧会開場御式の図

楊洲周延 明治10年(1877)

9) 内国勸業博覧会御式

松月保誠 明治10年(1877)



10) 大日本内国勸業博覧会之図 美術館出品之図

歌川芳春 明治10年(1877)



11) 内国勸業博覧会 機械館の図

楊洲周延 明治10年(1877)

12) イルミネーション(復刻・復刷版)

小林清親 年代不明

【第二回内国勸業博覧会】

会場: 東京・上野公園

開催期間: 明治14年(1881)3月1日~6月30日

総来場者数: 822,395人

第一回内国勸業博覧会から4年後、明治14年(1881)3月1日には、同じ上野公園で第二回内国勸業博覧会が開催されました。

前回に比べ会場は現在噴水広場がある旧寛永寺根本中堂跡附近まで広がり、会場表門は上野東照宮の北側付近に設けられました。

表門をくぐり、鶴の姿をした2基の噴水の間を進んで時計塔の下をくぐると、会場奥の正面にはジョサイヤ・コンドル設計によるレンガ造りの美術館が見えました。前年には上野公園へガスが敷設されており、美術館前の三燈式のガス灯をはじめ、会場全体にガス灯が設置されていました。

会場では出品物の展示方法を、前回の府県別の陳列から種類別に変えて、比較し易くする方法が取られました。

13) 東京名所之内 上野山内一覽之図

河鍋暁斎 明治14年(1881)



14) 東京上野公園地第二内国勸業博覧会開場之図

歌川広重(三代) 明治14年(1881)

15) 第二回内国勸業博覧会一覽図

歌川国政(四代) 明治14年(1881)

16) 第二回内国勸業博覧会場中道案内

歌川国政(四代) 明治14年(1881)

17) 第二回上野博覧会之図

歌川広重(三代) 明治14年(1881)



18) 東京名所 上野公園

内国勸業第二博覧会美術館図

歌川広重(三代) 明治14年(1881)

19) 上野博覧会図

楊洲周延 年代不明

20)内国勸業博覧会館内列品ノ図
歌川芳虎 明治14年(1881)

21)第二回内国勸業博覧会表口
小林清親 明治14年(1881)



22)第二回内国勸業博覧会内美術館噴水
小林清親 明治14年(1881)

【第三回内国勸業博覧会】

会場：東京・上野公園

開催期間：明治23年(1890)4月1日～7月31日

総来場者数：1,023,693人

第三回内国勸業博覧会は、これまで通り出展品を並べて評価して褒賞を与えるという形式が取られますが、徐々に人々の目を引きにくくなってゆきました。

博覧会の目玉は会場脇を走る電車で、現在の国立科学博物館から東京文化会館附近へ至る西側を実演運転しました。

会場はガス燈の他にアーク燈も設置されて新しい時代を感じさせます。博覧会開催中の5月には同じ上野に娯楽施設であるパノラマ館(建物内側の周囲全体に描かれた絵画を眺める施設)が開業し、11月には浅草に凌雲閣が竣工する時代には、人々の目は娯楽施設へも引きつけられるようになってゆきました。

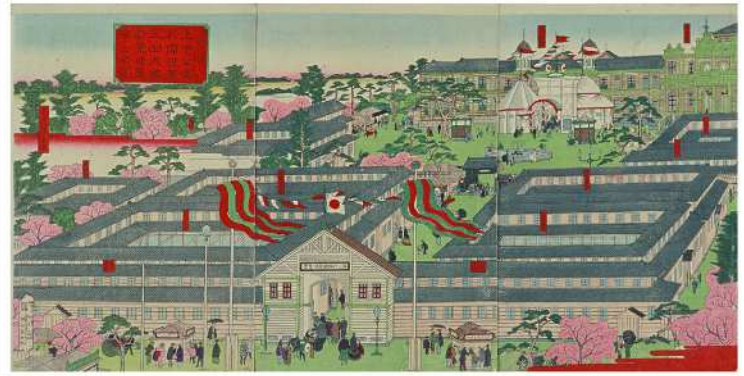


23)上野公園 内国博覧会開場之図
小林幾英 明治23年(1890)



24)東京名所 上野公園第三内国勸業博覧会場略図
歌川広重(三代) 明治23年(1890)

25)上野公園博覧会之図
歌川国政(五代) 明治23年(1890)



26)上野公園於開説第三回内国勸業博覧会之略図
歌川広重(三代) 明治23年(1890)

27)第三回内国勸業博覧会図
楊斎延一 明治23年(1890)

28)東京名所之内
上野公園地第三回内国勸業博覧会
歌川国利 明治23年(1890)

29)第三回内国勸業博覧会図
歌川国利 明治23年(1890)

30)勸業博覧会館内一覽之図
楊洲周延 明治23年(1890)

31)実測第三回内国勸業大博覧会全図
辻本文四郎 明治23年(1890)

【第四回内国勸業博覧会】

会場：京都・岡崎公園

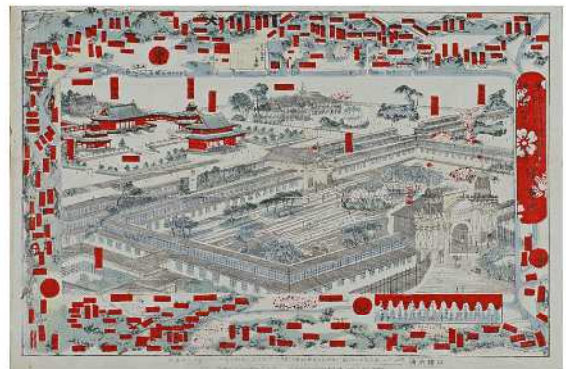
開催期間：明治28年(1895)4月1日～7月31日

総来場者数：1,136,695人

京都では明治27年(1894)が平安遷都1100年であることを記念して、第四回内国勸業博覧会誘致を政府へ働きかけ、一年遅れではありますが、翌年に現在の岡崎公園を会場として開催されました。

開催に先立つ3月15日に会場北の地には、平安遷都を行った桓武天皇を祀る神社として平安神宮が誕生しました。また博覧会開催に合わせて京都の街に登場したのが路面電車で、当初電気は琵琶湖疎水による発電でまかなわれました。

博覧会開催は京都の街が観光都市へと発展する、足場を固める切っ掛けとなりました。



32)第四回内国勸業博覧会並京名勝独案内
寺田英助 明治28年(1895)

【第五回内国勸業博覧会】

会場：大阪・天王寺公園

開催期間：明治36年(1903)3月1日～7月31日

総来場者数：5,305,209人

現在の天王寺公園を会場にして開催された第五回内国勸業博覧会は、大阪の官・財界が協力して誘致して実現しました。

この博覧会では国内だけではなく、参考館と呼ばれた建物では各国政府や企業が独自に出品した展示品が陳列されました。なかでもカナダ政府は「カナダ館」という展示棟を建設し、小麦粉を日本に売り込むためパンを製造配布し、アメリカからは自動車などが紹介されました。

このほか会場では、冷蔵庫(冷凍倉庫)や会場全体を彩る夜間の電気イルミネーション、ウォーターシューターやサーカスなど、より娯楽性の高い展示も紹介され、人々の注目を集めました。

これ以後に政府が主体となって開催された博覧会は、昭和45年(1970)の日本万国博覧会になります。

33) 風俗画報臨時増刊

第五回内国勸業博覧会図会

明治36年(1903)

【東京勸業博覧会】

会場: 東京・上野公園

開催期間: 明治40年(1907)3月20日～7月31日

総来場者数: 3,424,323人

元々は明治40年(1907)に第六回の内国勸業博覧会開催が計画されたものが、日露戦争による財政難も影響し、主催が政府から東京府へと移って開催されました。

第三回内国勸業博覧会と比べて、会場は上野の山から第二会場として不忍池周辺が、第三会場として帝国博物館西側の周りまで広がり、企業による展示施設や売店などが池の周りに並びました。

これまでの内国勸業博覧会に比べてより一層娯楽性が高まり、展示施設としては第五回内国勸業博覧会でも紹介された、ウォーターシューターやイルミネーションの他、観覧車や明治44年(1911)に改架される日本橋の模型などの出展がありました。

34) 東京勸業博覧会全会場明細図

明治40年(1907)

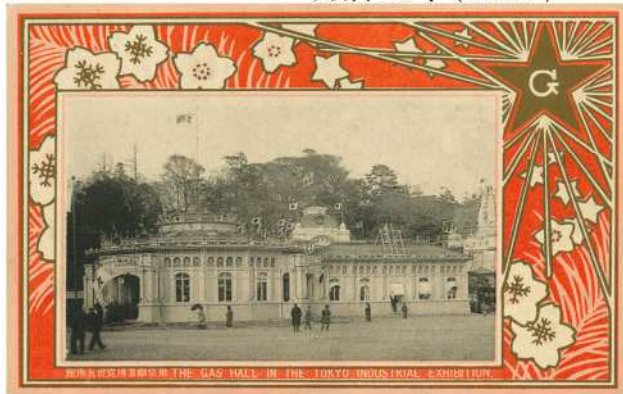
35) 東京勸業博覧会各館之光景

明治40年(1907)



36) 東京勸業博覧会第二会場夜景

明治40年(1907)



37) 絵葉書 東京勸業博覧会 瓦斯館

明治40年(1907)

38) 絵葉書 東京勸業博覧会 瓦斯館 夜景

明治40年(1907)

【受賞と宣伝】

各博覧会へ出品して受賞を受けると、出品者は賞牌を受けたことを宣伝に利用しました。

内国勸業博覧会の認知が人々の間に広まると、審査結果は自分たちの商品の価値を高める反面、競合製品との賞牌の差に関心を払う必要が出てきました。今回は審査結果を宣伝に利用した、2点の広告を紹介します。

39) 大黒屋引き札

明治23年(1890)頃

40) 広告 中川幸七商店

明治14年(1881)頃

おもな参考文献

博覧会と明治の日本 國 雄行 (株) 吉川弘文館 平成 22 年(2010)

博覧都市 江戸東京 東京都江戸東京博物館 平成 5 年(1993)

GAS MUSEUM がす資料館 企画展ご案内郵送申込について

ご来館ありがとうございます。これから3ヶ月ごとに開催されます、「GAS MUSEUMがす資料館 企画展」のご案内はがきの郵送をご希望の方は、官製ハガキに ①氏名 ②連絡先住所 ③年齢 ④電話番号 ⑤感想・意見 ⑥今後希望する企画展、をご記入の上、下記の住所までお申し込みください。

次回より約 1年間、毎企画展ごとにご案内ハガキを無料で郵送します。

(ハガキ持参で来館された方は、そのまま継続して登録されます)

〒187-0001 東京都小平市大沼町 4-31-25 GAS MUSEUMがす資料館「ご案内ハガキ」係

TEL(042)342-1715 FAX(042)342-8057

《当館のお客情報(個人情報)は、当館イベント運営に必要な業務を含め、当館に関連する企画、及びサービスのご案内のために使用いたします。》